

サラダバー

井 口 昭 久



土曜日の昼にとんかつ屋へ一人で出かけた。その店はサラダバーがセットになつていて割安のためか流行はやつていた。席に着いた時は午後1時を過ぎていた。案内してくれた店員に「ハンバーグ」を注文した。「ちよつと待つてください」と、その店員がいなくなると、違う人が注文を取りにきた。その人に「サラダも」と言うと「サラダバーですね」と言って去った。サラダバーにはご飯も並べてあった。

待っていた。斜め前方に座っていた40歳代の男性はサラダバーからサラダとご飯を持ってきて食べ始めていた。1時10分には子供二人を連れた家族が入ってきて私の横に座った。15分ほどで、前の老人にはステーキが届いた。そろそろ私のハンバーグも届くだろうと思つていた。口腔内には唾液だえきがはじめていた。「人の唾液は一日で1・5リットルも出るんだよ」と講義で学生に教えたことを思い出していた。私のハンバーグは30分を過ぎてても届かなかつた。「ひよつとして忘れられているのでは

ないだろうか？」という疑念が生じた。

しかし斜め前方の男性は相変わらずサラダとご飯だけ食べていてステーキもハンバーグも届いていなかった。取りあえず仲間外れにされてはいないと思つた。

外を見て気持ちを紛らわそうとしたが、窓ガラスの下半分は化粧紙で覆われていて街路を眺めることはできなかった。上の半分から外を見上げると雨粒が落葉樹の葉から葉へ伝わるように落ちていた。

同じ「待つ」にしても胃カメラの検査を待つよりはいいわ、と思つたりしていた。私は胃カメラの検査を受けたばかりだった。胃カメラを飲む前には唾液は出なかった。

左の視界にウエイトレスがハンバーグの鉄板を持って近づいてくるのが見えた。私はナプキンひきを膝ひざに下ろした。

しかしウエイトレスは私より後から来て横に座った家族の席へ油の跳ねている鉄板を持っていつてしまった。



空腹に失望が加わると怒りが生まれた。「ちよつと、ちよつと」と私はウエイトレスを呼んだ。「どうなつてゐるの?」と聞くと、年配のウエイトレスを連れてきた。「お客さんは単独サラダバーでしたよね」と念を押された。

最近その店では「単独サラダバー」というメニューが加わつたことを初めて知つた。そのメニューにはステーキもハンバーグも含まれていないのだつた。そういえば斜め前方の男性はサラダ二皿とご飯だけを食べて出て行つてしまつていた。時はすでに1時50分であつた。

(愛知淑徳大学教授・名古屋大学名誉教授)